

授業科目名	在宅看護学 I	担当教員	◎栗栖千幸、新田静江、野村由利子、木村奈津子、大川薫、桑原直子、佐々木真弓、鈴木茂樹、打野弘子、鎌田喜子、吉野有美子、川名延江
必修	開講年次：3 年前期	単位：3 単位	授業形態：講義 30 時間、演習 30 時間

【授業概要】

在宅看護は地域看護の一分野であるが、このコースは、二次予防を含む在宅看護独自の機能を把握しながら、幅広い、かつ綿密な観察力、判断力、人間関係能力とその実践に必要な方法論、技術を学ぶ。

【授業目的・目標】

1. 在宅看護を構成する概念について説明する。
2. 在宅ケアの発達を促進する社会情勢や社会福祉制度を理解する。
3. 地域における看護活動の変遷と現状を考察する。
4. 地域看護における在宅看護活動の位置づけを理解する。
5. 在宅看護の対象とその環境を理解する。
6. 在宅看護の特徴と看護師の役割について説明できる。
7. 医療チームの一員として社会資源の連携と活用を図るための方法が説明できる。
8. 在宅看護に必要な知識と技術がシミュレーションの場で説明、実践できる。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|---------|
| [01] 在宅看護をとりまく社会状況と法・制度 | (新田) |
| [02] 在宅における訪問看護 | (新田) |
| [03] 療養者・家族への教育・指導 | (新田) |
| [04] 栄養摂取困難のある療養者と家族への在宅看護 | (栗栖) |
| [05]～[07] 【演習】胃ろう栄養法への支援 | |
| 【課題 1-1】「プロフェッショナル仕事の流儀」【課題 1-2】「訪問看護エピソード集」1 章・2 章 | (栗栖・野村) |
| [08] [09] 家族アセスメント | (新田) |
| [10] 認知症のある療養者と家族への看護 | (新田) |
| [11] 在宅の事故と救急対応：誤薬、窒息、外傷、骨折、熱中症、熱傷 | (新田) |
| [12] 障害のある小児の療養者と家族への看護 | (栗栖・木村) |
| [13] 排泄機能障害のある療養者と家族への在宅看護 | (栗栖) |
| [14] 在宅における医療の実際 | (大川) |
| [15] 【課題 2-1】訪問看護における情報収集(介護保険) | (栗栖) |
| [16]～[18] 【演習】清潔操作、膀胱留置カテーテル交換と管理 | |
| 【課題 1-3】「命をめぐる対話 暗黙の世界で生きられますか」 | |
| 【課題 1-4】「訪問看護エピソード集」3 章・4 章 | (栗栖・桑原) |
| [19] 認知症サポーター養成講座 | (栗栖) |
| [20] 訪問看護導入における視点と態度【演習】訪問看護疑似体験 | (栗栖) |
| [21] 難病のある療養者と家族への在宅看護 | (佐々木) |
| [22] 呼吸障害のある療養者と家族への在宅看護 | (栗栖) |
| [23] 在宅酸素療法(HOT)と人工呼吸器使用の療養者への支援 | (鈴木) |
| [24] 【演習】HOTと人工呼吸器使用療養者への支援【課題 2-2】訪問看護における情報収集(医療保険) | (栗栖・鈴木) |
| [25] 在宅療養者と家族介護者の生活 | (栗栖) |
| [26] 【対談】在宅療養者と家族介護者の生活 | (栗栖) |
| [27] 在宅看護における職種間連携(栗栖) ケアマネージャーによる支援の実際(打野) | |
| 入院患者・家族への退院調整看護師による退院支援の実際(吉野) | |
| [28] ソーシャルワーカーによる支援の実際(鎌田) 在宅療養者と家族を支える複合型サービスの実例(川名) | |
| [29] 南房総における訪問看護(栗栖) 【シンポジウム】「やりがい事例と苦悩事例」 | |
| [30] グループ討議「在宅看護学臨地実習」オリエンテーション | (栗栖) |

【教科書】

特に定めない。

【参考書】

指定なし。授業の度に資料を配布し、参考文献等を提示する。

【評価方法・評価基準】

試験成績(小テスト・定期試験)80%、課題学習20%にて評価する。
試験成績は、小テスト又は定期試験のいずれか高い方の得点とする。
合格は試験得点が60%の得点(48点/80点)以上で、総合点が60点以上とする。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の記述を行い授業に臨むこと。
事後学習：各講義の事後学習として翌週に小テストを実施する。指定された課題を指定用紙に記載して提出する。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅴ. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

小テストの問題は回収せずに正解を1週間掲示し、レポートは評価点を記載して学期内に返却する。

【備考】

1 回目の授業で受講にあたっての注意点を確認します。休まないで出席してください。